

事例研究報告

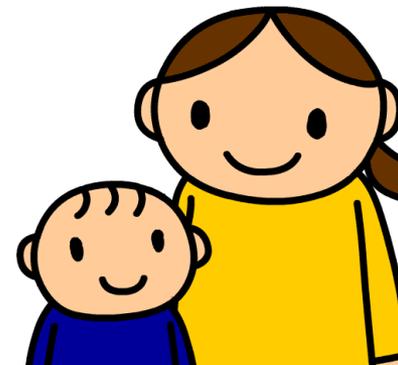
**小学部の児童が
絵カードを見て自発的に
命名するための指導
～模倣から命名へ～**

児童の実態

- ・知的障がい，自閉症
- ・発達年齢：2歳4ヶ月
- ・教員や友だちと関わるのが好きで，自らコミュニケーションを取ろうとする。
- ・発音は不明瞭であるが，教員の言葉をまねたり自分なりの言葉で伝えようとしたりする様子が見られる。
- ・教員の話しかけ方で，褒められていることや注意を受けていることがよくわかる。
- ・視覚的支援が有効。
- ・身体的支援や強い口調で話しかけられることが苦手。
- ・自分の思いが伝わらない時にパニックになることがある。

保護者の願い

- ・言語理解が進んでほしい。
- ・絵と音声に対応してほしい。



教員の願い

- ・自分の思いが伝わった！うれしい！という経験をたくさん積むことで、「話したい」という気持ちを育てたい。
- ・思いが伝わる場面を増やすことで、パニックになる要因を減らしたい。
- ・教員の言葉を真似しようとする様子がよく見られるので、言える言葉を増やしていきたい。
- ・絵と音声のマッチングの学習を通して語彙を増やしたい。

アドバイザーからの助言(1回目)

- ・言語でのコミュニケーションができそう。
- ・日常生活で使える言葉を中心に、絵カードを使用した命名フラッシュの学習に取り組んでみてはどうか。
- ・模倣から命名の手順で指導すると良いと思う。
 - 発音がしやすく、名詞の理解があるものから取り組む。
 - 「これなあに？」で答えられるようにしていくとよい。

取り組む課題

- ・日常生活道具，動物，食べ物などの絵カードのなかで，くもんの食べ物カードが一番興味がありそうな様子。
- ・食べ物カードを使用して**命名フラッシュ**の課題に取り組む。
- ・学習する単語は以下の25種類。

本児が発音しやすい単語

- ・もも
- ・いぬ(ワンワン)
- ・スープ
- ・パン
- ・パンダ



これから学習する単語

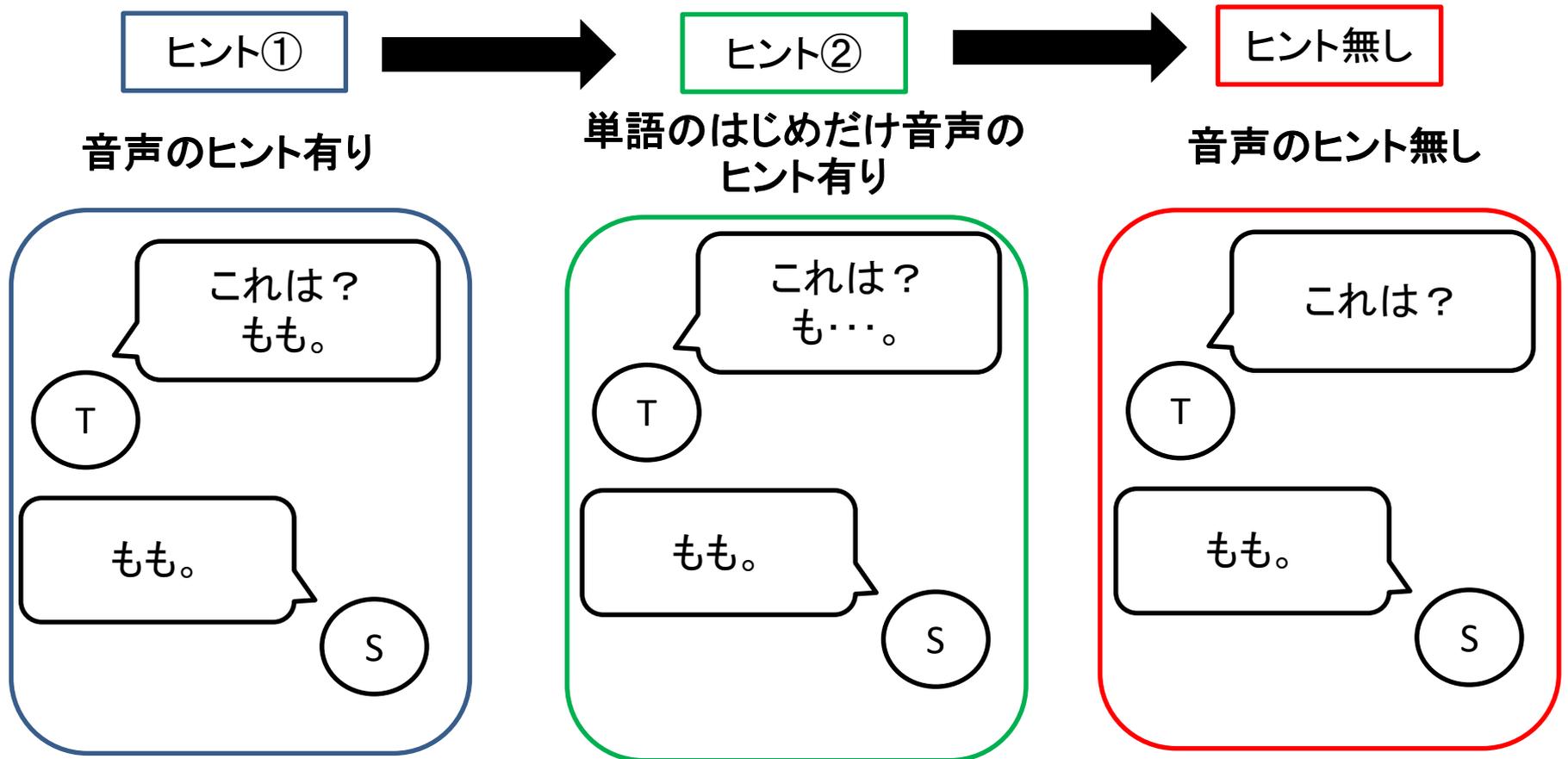
- ・りんご
- ・ねこ
- ・ごはん
- ・エビフライ
- ・きゅうり
- ・バナナ
- ・ラーメン
- ・グラタン
- ・ピーマン
- ・ケーキ
- ・ギョウザ
- ・シチュー
- ・だいこん
- ・うどん
- ・ぶどう
- ・ハンバーグ
- ・トマト
- ・チャーハン
- ・やきそば
- ・ハンバーガー

指導の手続き①

- ・ひとつの単語につき1試行とする。(エラー修正は行う。)
- ・絵カードは、本児の前にフラッシュカード形式で1枚ずつ提示する。カードは、「得意な単語→苦手な単語→得意な単語…」のように提示し、苦手な単語が連続しないようにする。なお、カードの提示順は固定しないようにランダムに変える。(「得意な単語→苦手な単語→得意な単語…」の順はそのまま)
- ・教員の音声のヒントを聞いて正しく命名できたときや音声のヒントに近い発音(例:トマト→ポマト)で命名できた時はすぐに称賛する。
- ・間違っ命名した時は再度ヒントを出し、正しく命名できるようにする。(エラー修正)
- ・称賛は「すごい」「まる」「天才」などの言語称賛とハイタッチ。

指導の手続き②

- ・はじめは教員が音声でヒントを出す。音声のヒントは、次のように無くしていく。



記録方法・評価基準

0点	音声のヒントがあっても言えなかった。 →「これは？もも」「これは？も…」→「…」
1点	Tの音声のヒント有りと言えた。 →「これは？もも」「これは？も…」→「もも」
2点	Tの音声のヒント無しと言えた。 →「これは？」→「もも」

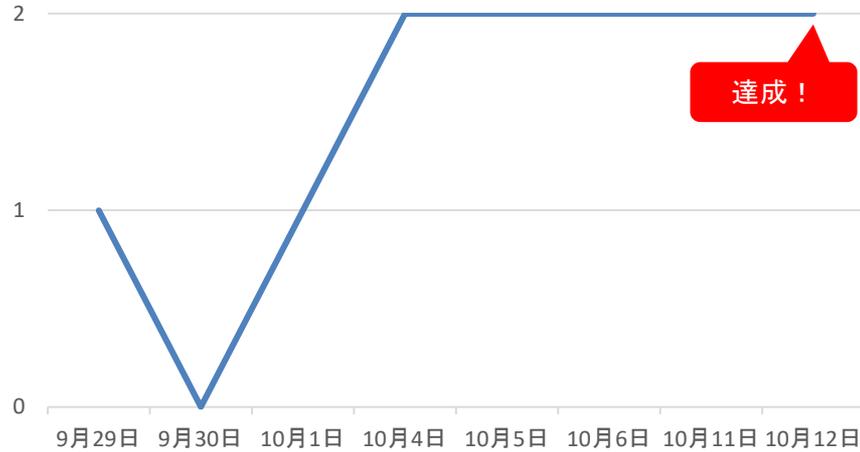
- ・ヒント①とヒント②，どちらのヒントを受けて言えた場合も1点として記録する。
- ・エラー修正をして，言えた場合も1点として記録する。

★教員の音声のヒント無しで，カードを見て命名することが5日連続でできたら目標達成とする。

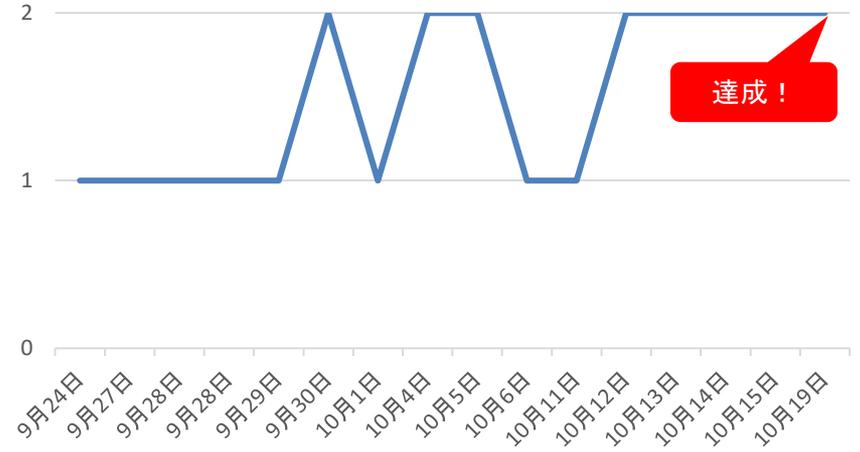
記録①

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた

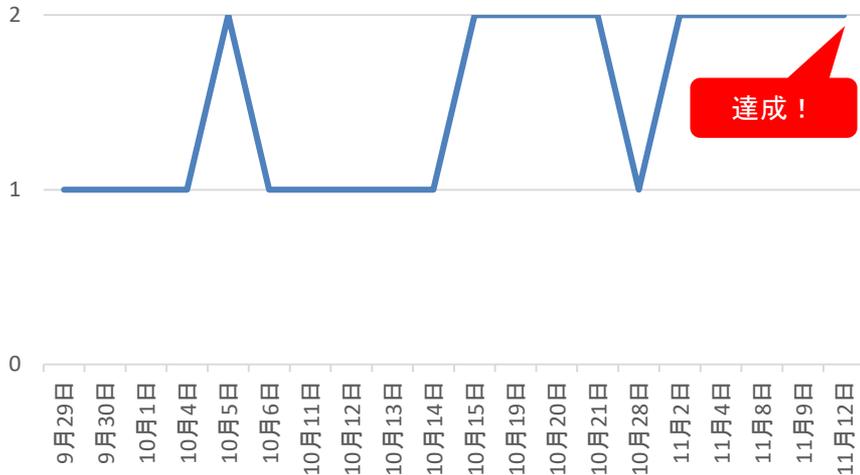
スープ



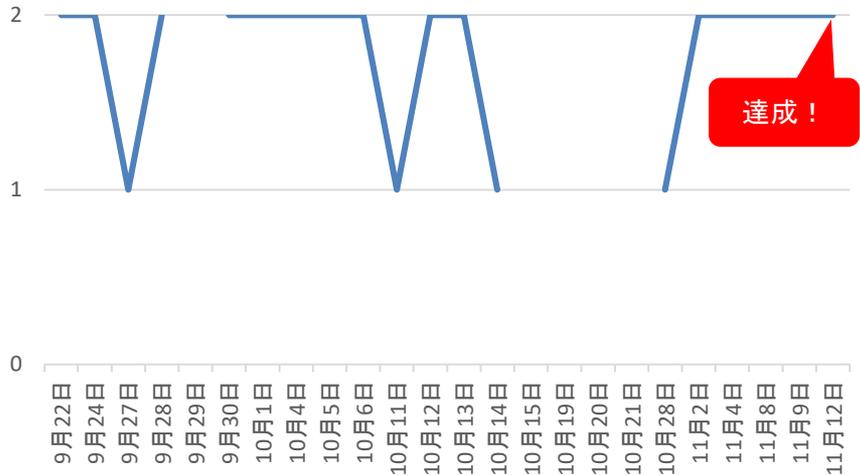
りんご



シチュー



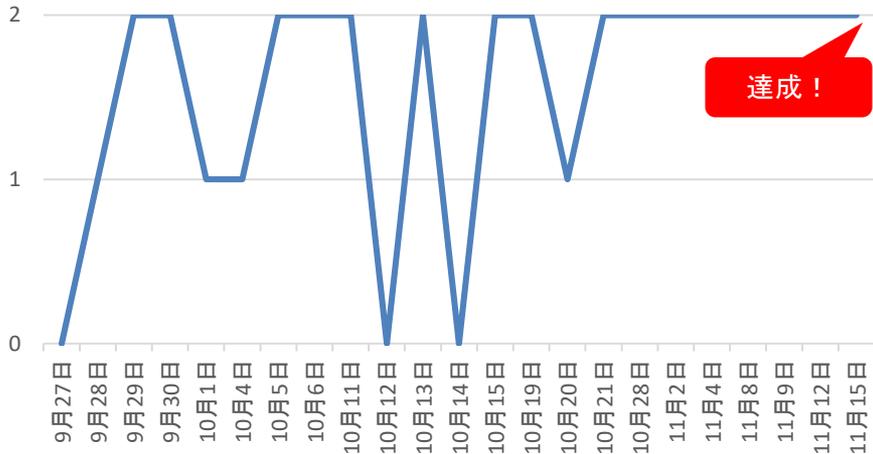
ねこ



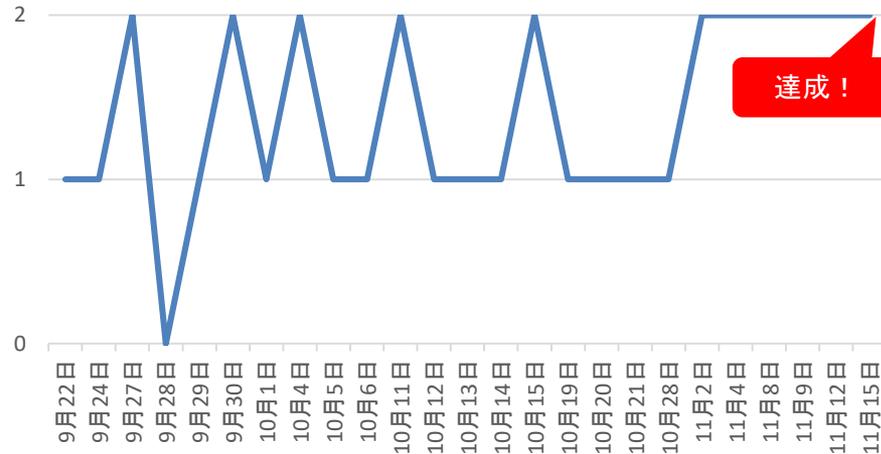
記録②

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた

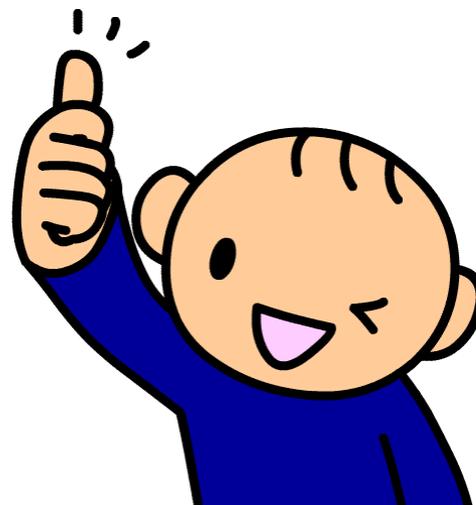
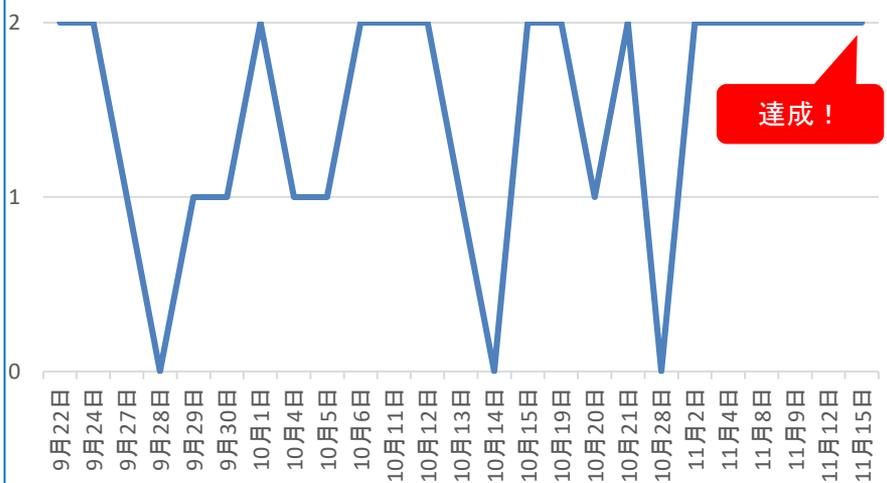
バナナ



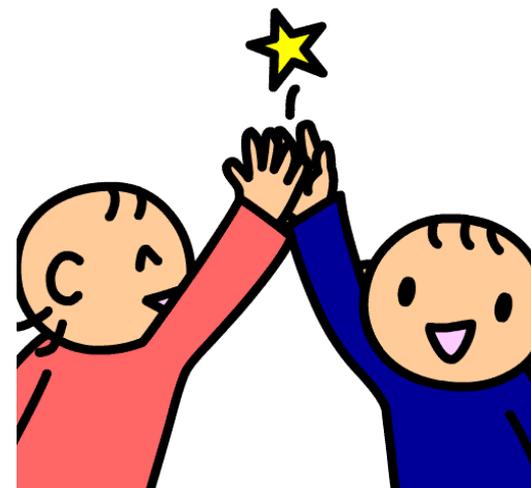
きゅうり



トマト



- 本児の興味がある食べ物のカードを使用したり，本児の好きなキャラクターのおもちゃのマイクを使用したりすることで，意欲的に学習に取り組むことができた。
- カードを提示後，すぐに音声のヒントを出して正しく命名できるように指導したことで，児童が間違える経験をほぼせずに正しく命名することができた。
- 「すごい！」「天才！」などの言葉での称賛や，ハイタッチ等でたくさん称賛したことでやる気がアップし，自発的に命名することが増えた。



しかし…

- ・正しく命名できる単語が増えてきたものの、だいこん、エビフライなどの4文字以上の単語やハンバーガー、ラーメン、ケーキなどの長音については正しく命名することが難しい。
- ・カードの裏に書かれているひらがなをタッピングしながら命名しようとするが、タッピングの数と命名している言葉の数が合いにくい。

どのように指導すれば
児童にとってわかりやすい
だろう？



アドバイザーからの助言（2回目）

- 本児は微細運動が苦手そうな印象を受ける。カードの裏の小さな文字をタッピングするのでなく、空間を広く使ってタッピングしたほうがよい。
- 例えば、大きな丸印のカードやマークを本児の前に提示して、体を大きく使いながらタッピングすることで音が分かれていることを意識しやすいようにする等。
- 明瞭性を上げていくことと、言える言葉が増えることは別だと捉えて考える。言える言葉が増えてから、タッピングをして明瞭性を上げていくという流れをくむ方がよい。
- しゃべることに意欲的になってきているので、どんどん話せる言葉を増やしていくとよい。名詞だけでなく、動詞や色、形など概念的な言葉にもチャレンジしてみてもよい。

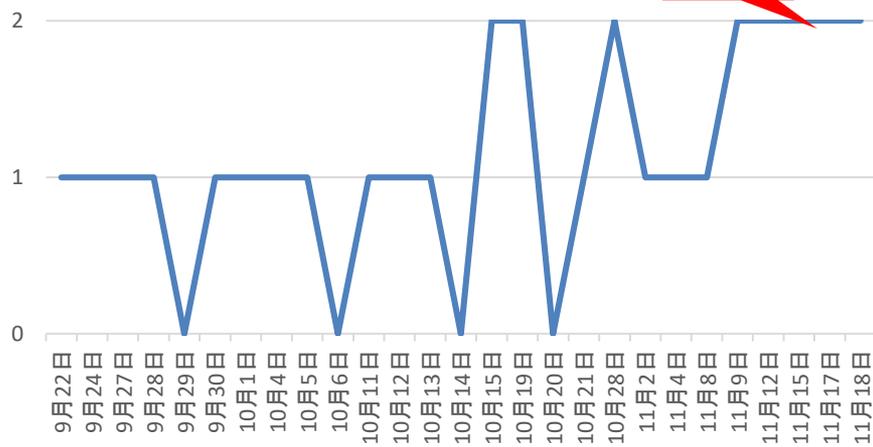
助言を受けての見直し

- ・カードの裏の文字タッピングは中止。
- ・本児は音楽が好きで、リズム感が良い。カードを見て命名する時に本児と教員が手をつなぎ、言葉のリズムに合わせて手を上下に動かすことで言葉のリズムがわかりやすいようにする。
- ・くもんの食べ物カードの他に、わらべきみかの食べ物カード、教員や友だちの顔写真カード、絵本(『りんごがころん』『しりとりしましょ!』)を使用する。

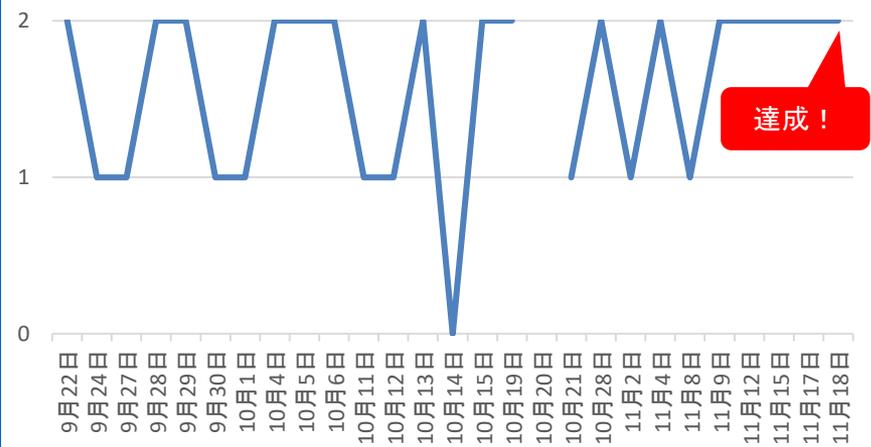
記録③

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた

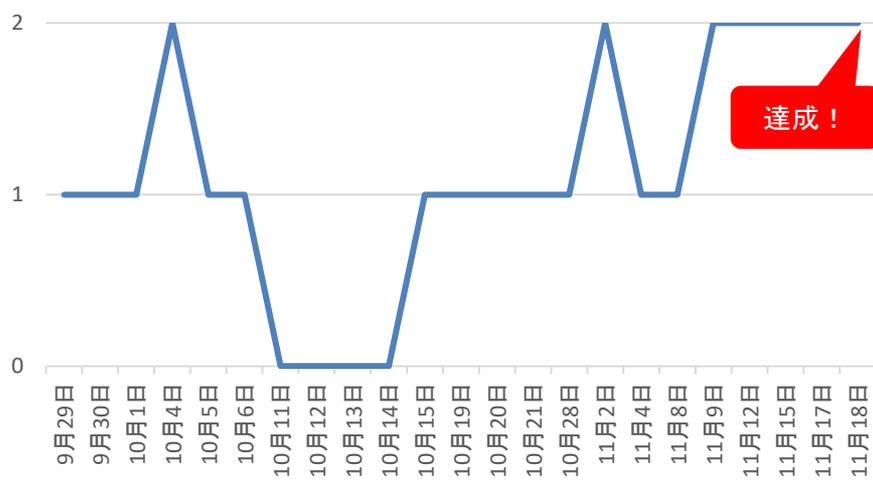
ぶどう



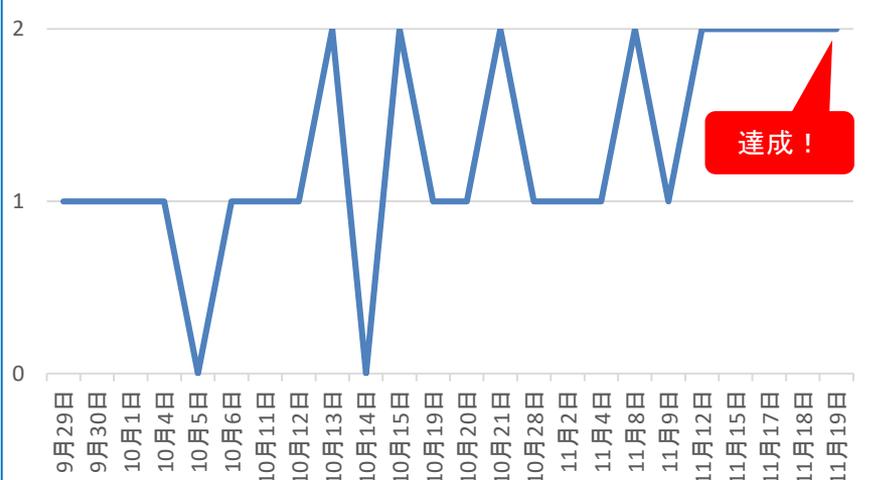
だいこん



うどん



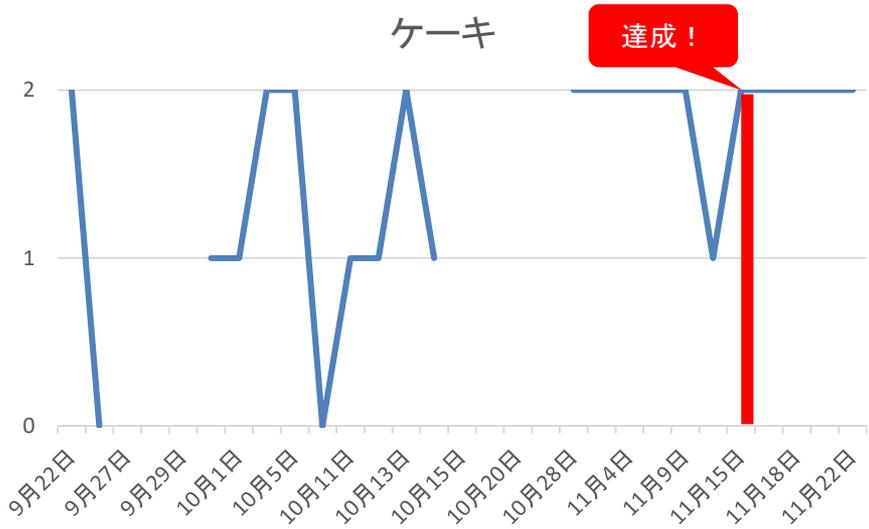
ごはん



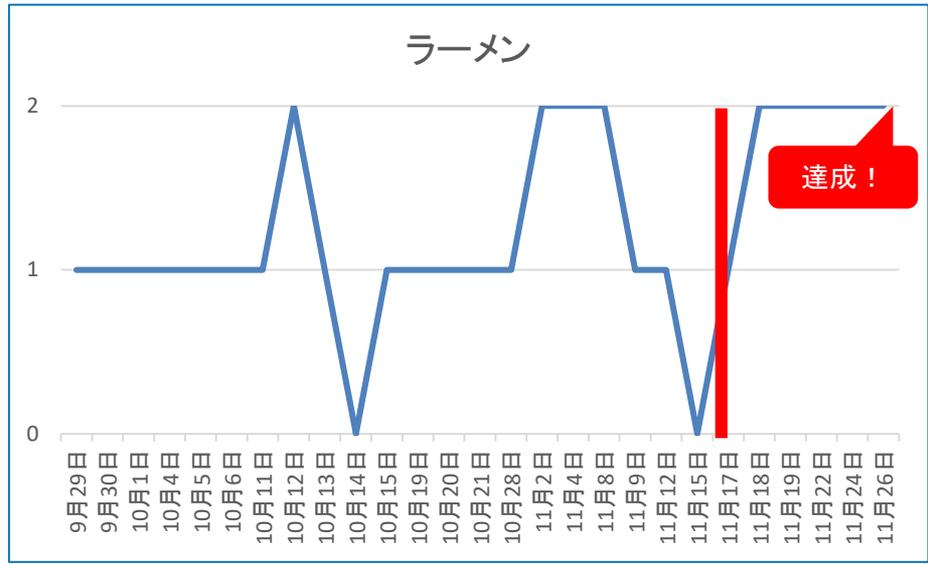
記録④

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた
 — : リズムのヒントを開始した日

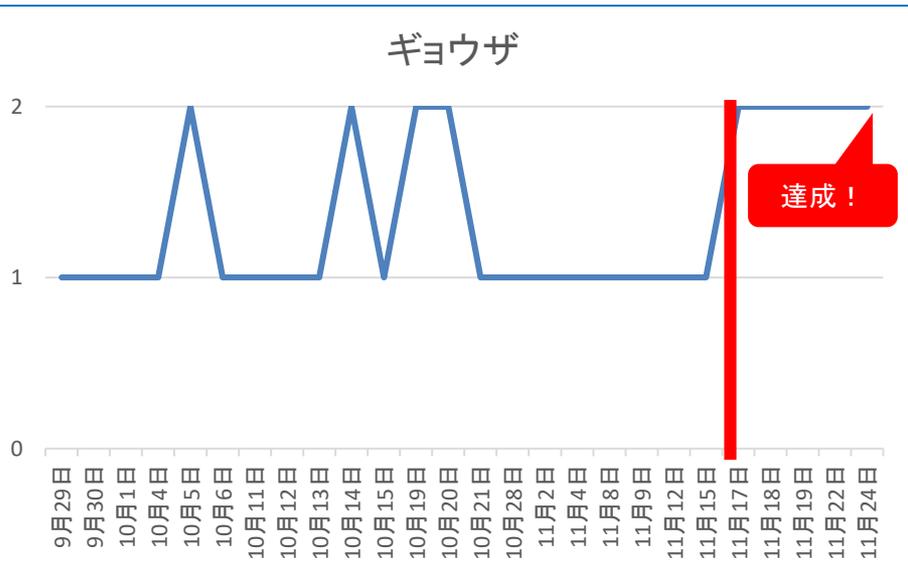
ケーキ



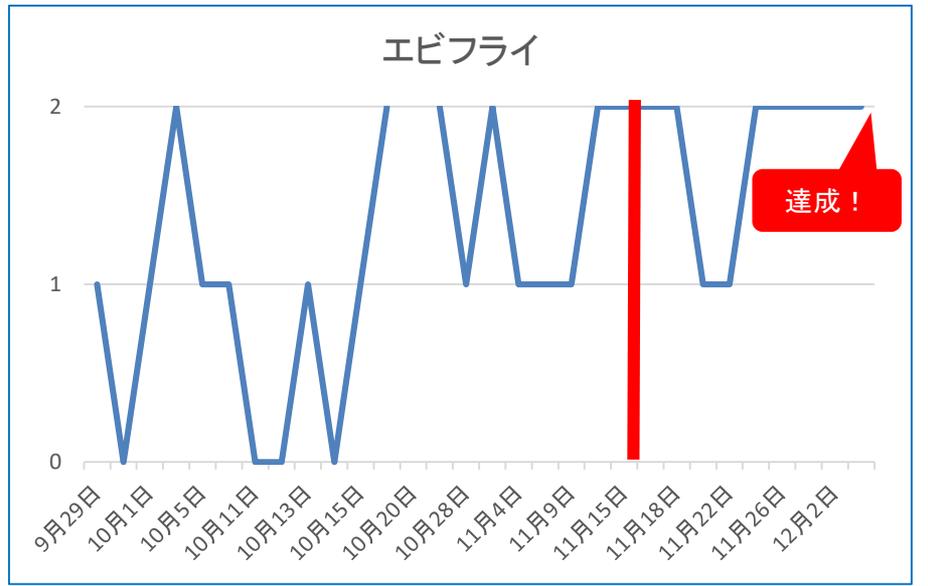
ラーメン



ギョウザ

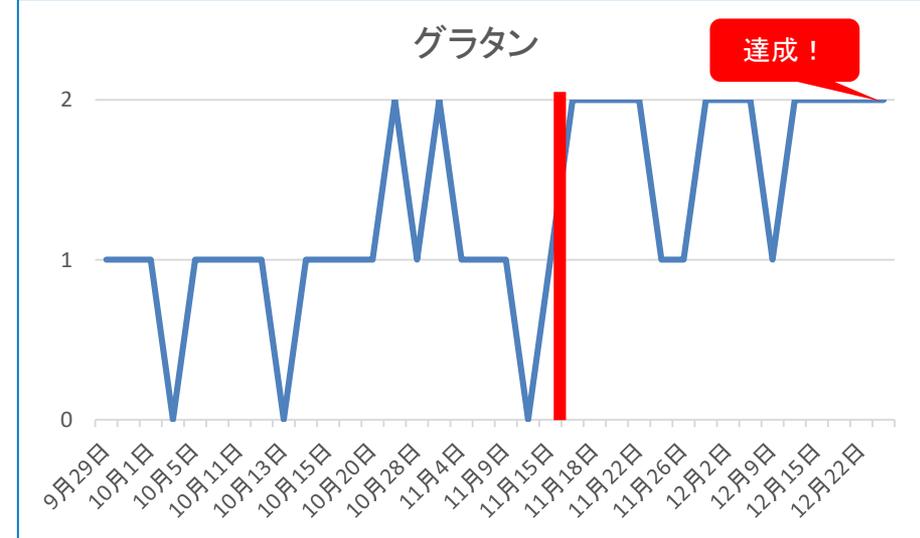
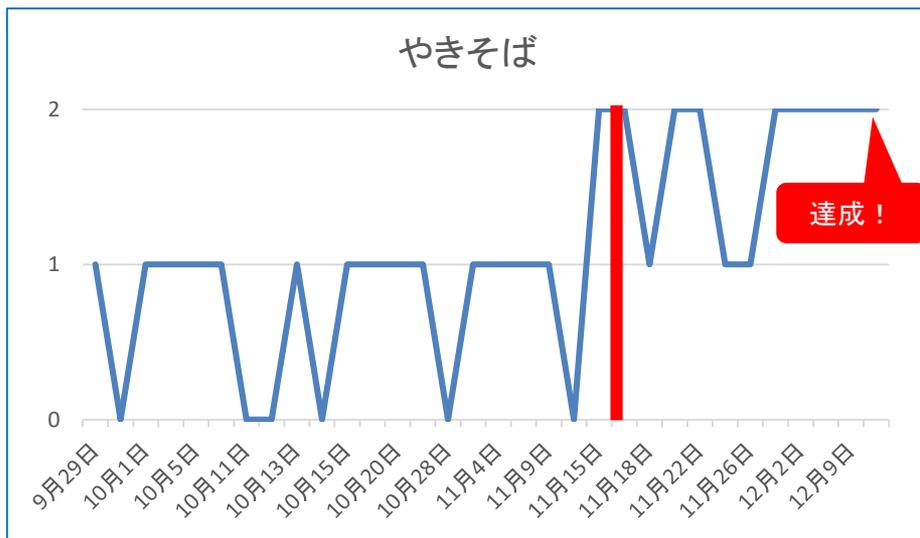
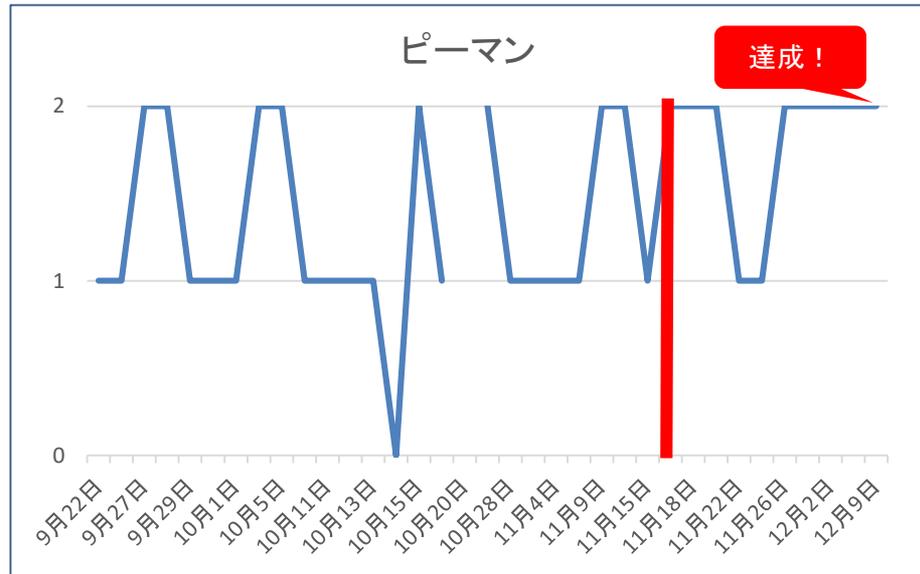
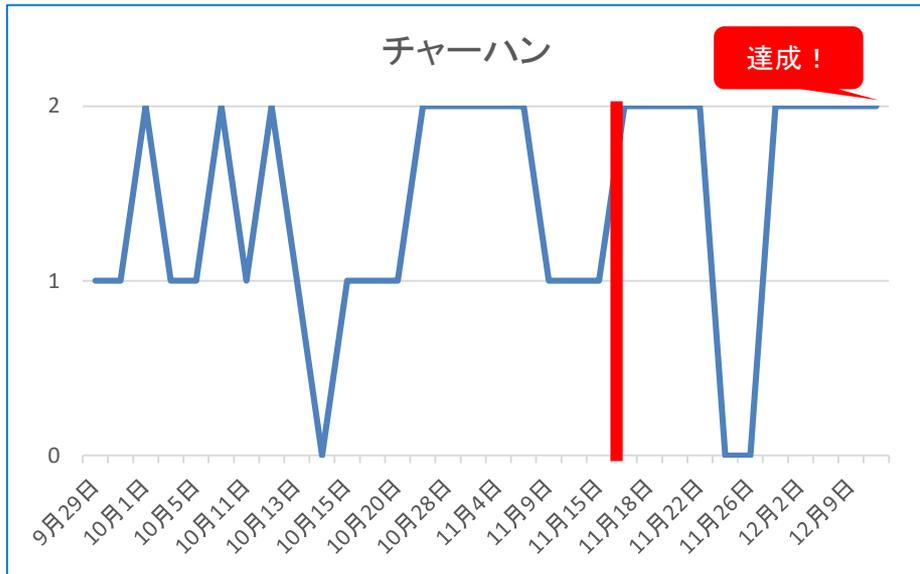


エビフライ



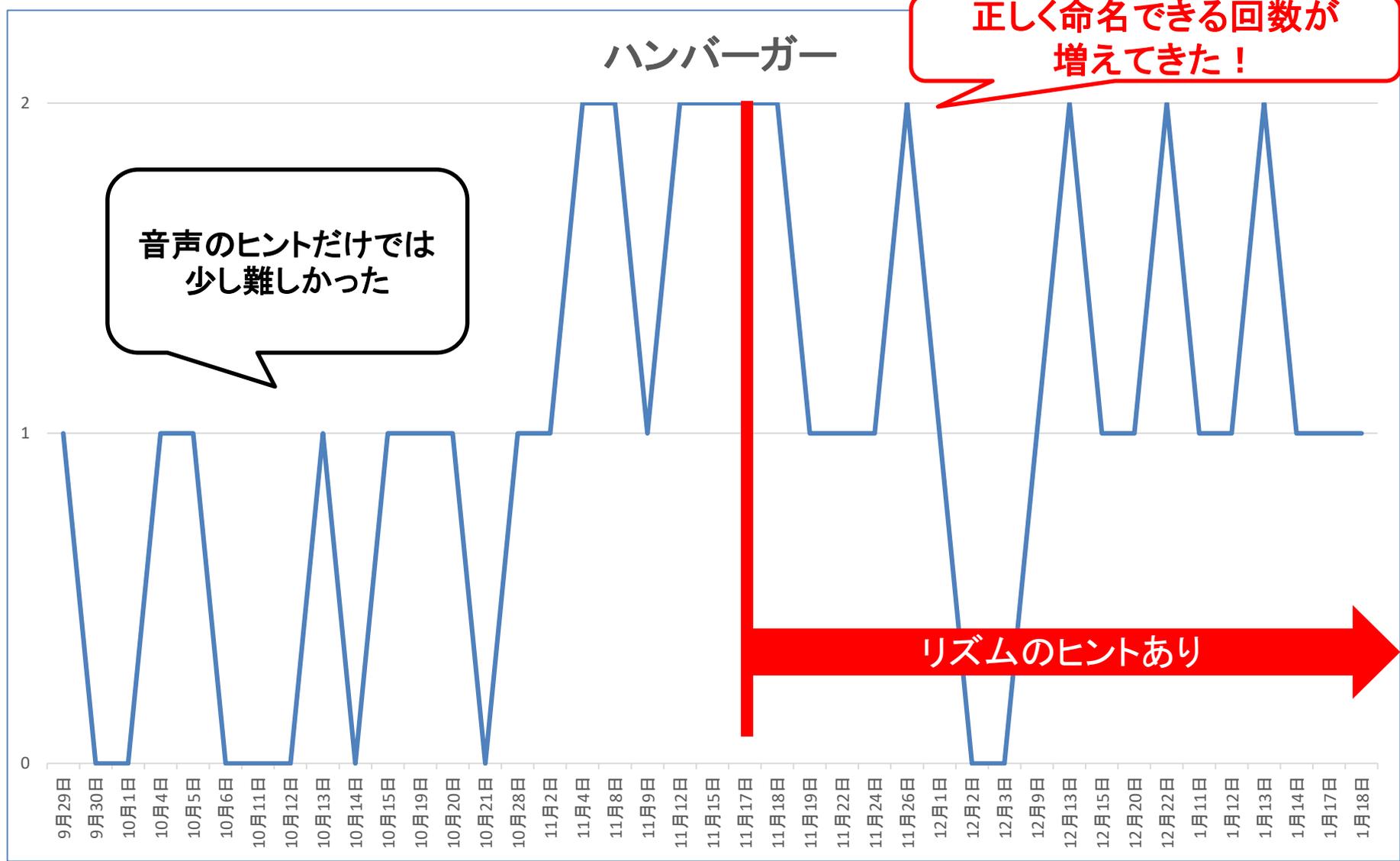
記録⑤

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた
 — : リズムのヒントを開始した日



まだ目標達成していない単語も...

0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた
— : リズムのヒントを開始した日

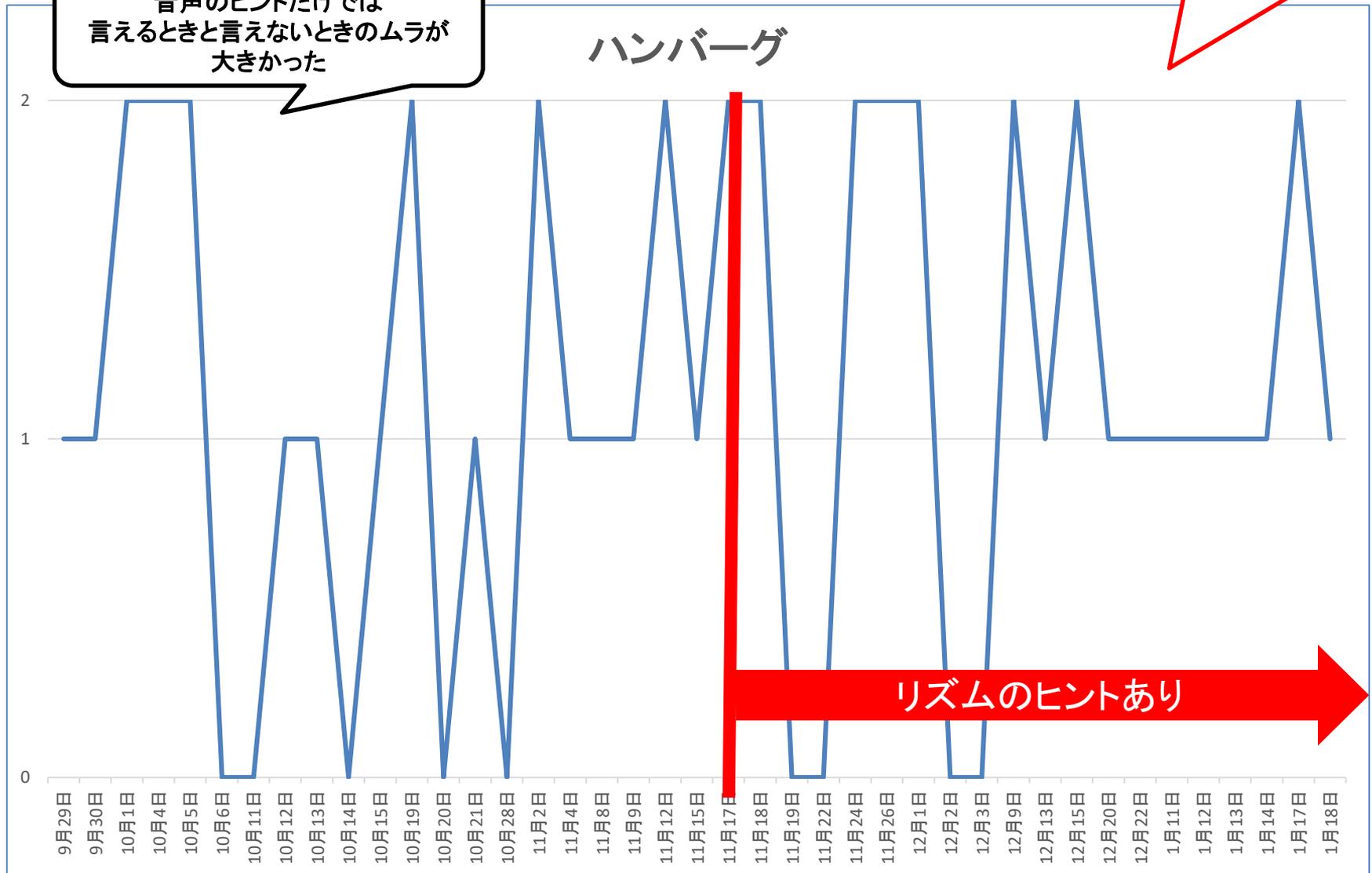


0: 言えなかった 1: ヒント有りで言えた 2: ヒント無しで言えた
— : リズムのヒントを開始した日

正しく命名できる
回数が増えてきた!

音声のヒントだけでは
言えるときと言えないときのムラが
大きかった

ハンバーグ



リズムのヒントあり

発音の移り変わり

言葉	指導前	指導後
スープ	フン	スース
りんご	ディゴ	ディンゴ
シチュー	ティー	ティテュー
ねこ	ター	テト
バナナ	バ	アナナ
きゅうり	ティ	テューティ
トマト	パ	ポパポ
ぶどう	ドウ	ドウドー
だいこん	ダ	ダーコン
うどん	ドン	ドウドン
ごはん	ティ	アハン

言葉	指導前	指導後
ケーキ	ティ	テーティ
ラーメン	ティ	ターテン
ギョウザ	ダ	デョーダ
エビフライ	フン	デディブライ
チャーハン	チャー	テャーハン
ピーマン	ティー	ティータン
やきそば	バ	タテイトバ
グラタン	ン	アータン

食べ物カードで学んだ言葉
以外(たこやき, ドーナツなど)の
単語の命名にもチャレンジ!

ころん, ぱっ, ぐにゅ
ぽぽ~などの言葉にも
チャレンジ!



指導の成果

- ・以前は、話すことに消極的だったが、命名フラッシュの学習をはじめてから、どんどん話したい！言いたい！という様子が多く見られるようになってきた。
- ・正しく命名できる単語が増えてくると、普段の学校生活や家庭においても「先生」「パパ」「ママ」「できた」「はい、どうぞ」「あれ？」「いただきます」など、自発的に言葉でコミュニケーションを取ろうとすることが増えた。
- ・PECSのカードで教員に伝える時はカードをタップするだけだったが、カードをタップしながら「先生、iPad、ください」などと話すようになってきた。
- ・絵本に興味が出てきており、教員と一緒に声に出しながら「いただきます」「あーん」などと読むことが増えた。

ここが成功のポイント



- 食べ物や絵本など**本児の興味のあるテーマをもとに教材を設定したこと。**
- 本児の苦手な単語が連続しないように「得意な単語→苦手な単語→得意な単語・・・」の順で提示することで、**無理なく学習をすすめたこと。**
- 正しく命名できた時だけでなく、**音声のヒントに近い発音で命名できた時に称賛したこと。**
- 学習時だけでなく、**普段の学校生活においてもあいさつや報告、発表、読み聞かせなど言葉でコミュニケーションを取る場面を設定したこと。**